研究のあしあと１

令和５年度　久美浜小学校研究推進部
令和５年７月

今年度より、府小研の研究協力校としての取組が本格始動となりました。
昨年度はフィールドワークを行ったり、生活科と総合的な学習の時間の出前講座で話を聞いたり、各教科１本ずつの研究授業をしたりして、研究の土台作りを行ってきました。
今年度は更に研究を深めるべく、全学年１時間ずつ研究授業をお世話になります。また、嬉しいことに京都教育大学の大久保紀一朗先生に研修に入っていただき、学びを深めることができることになりました。併せてリーディング DX の分野でも中川社長様に様々なことを教えていただけるということで、本校としては心強い体制での１年目を迎えることができました。
今年度も「研究のあしあと」を記録していきたいと思います。第１回目は、６月１４日にお世話になった大久保先生のお話です。

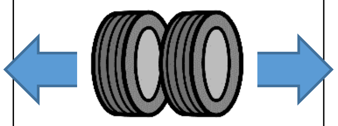
導入として・・・まずは
Jamboard（ジャムボード）へのアクセス

付箋のツールとして有効なことをみんなで体験
⇒結果、授業展開で活用できそうなことを理解
⇒指定校限定で、ジャムボードの使用可となったそうです。今後、あらゆる場面で大いに活用していきましょう！

１　校内研修とリーディング DX（ICT 活用）

校内研修
生活科･総合的な学習の時間
「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造」
～自分･人･地域がつながり、かかわる～

両輪で進めていく



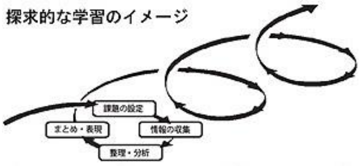
リーディング DX
･先進的な実践例の創出･全国展開
･教科横断的プログラムの開発
･GIGA スクール構想のための調査･分析

とはいえ、GIGA スクールの基盤作りは難しそう。
でも、しんどいのは初めだけで、乗り越えたらものすごくより良い授業作りが可能になる！！

イメージ図

目指すは、各教科の探究化

しかし、まずはこちらから



基盤に、リーディング DX（情報端末）

２　校内研修の進め方

基本的には、日々の取組の蓄積

ゴールのイメージは共有

それぞれの先生が、
それぞれのペースで
それぞれ STEP

※ミスしたこと、うまくいかなかったこともどんどん実践の共有を！ミスしたっていい。記録をのこしていくことで、改善を図ることができるから、とにかく日々の実践の共有・対話をしていきましょう！

３　幼児教育・生活科・総合的な学習

「どの道具を使うか」
「何を使うか」を子どもが判断
児童自身が追究していけるように

環境整備

①続きがいつでもできるように場所や道具を確保しておく
②継続して取り組める環境作り

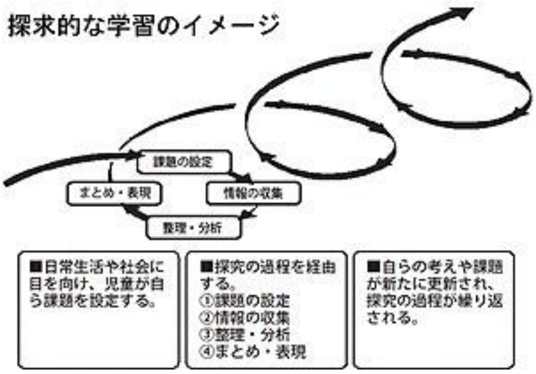
一方で安全面の配慮も大事だが・・・
「危ない」ことを「子ども達自身が危なくないように考えられる力を付ける」に転換

テーマに沿って考える⇒やってみる
⇒うまくいかないことをまた考える⇒やってみる
のように、学習過程のみを示す授業方法もある

基盤となるスキルの指導　　しかし、直接体験ももちろん大事！にしつつメディアをかませていく方法で

４　課題設定、主体的な学びの工夫・仕掛け

・課題設定は、大人でも難しいこと
　だから、課題設定をするだけで１ループ回すイメージを指導者が持つ
（１つのものの提示だけで課題設定するのではなく、見たり・調べたり・比べたりする中で課題をうませる⇒自分事の課題へ発展）
・自分の身の丈にあった課題になっているかは、後で考える



誰かに「何かをしなさい」と言われると、誰も嫌になる。
だから、「自分がやっているんだ」「自分が決めているんだ」「自分がコントロールしているんだ」というのが、課題設定にはとても大事

「研究推進部との協議」の中で
①探究の図式を掲示して、今何ループ目かを児童自身が意識できることも有効
（「〇サイクルしたからうまくいったよね」など）
②先生が教えることは、内容ではなく探究のスキルである。内容は児童によって変化していくもの
③「まとめ・表現」では、リフレクション（それによって児童が何に気づき、何を感じたか）を交流するのもあり

　大久保先生からは、「地域をテーマにした学習を通して子どもにどんな資質･能力を身に付けさせたいかがポイントになる」と、教えていただきました。我々指導者は、地域への愛を深めさせることを通して、子どもに付けさせたい力のためにどう向かってどう指導していくか、今後の授業の単元構想に生かしていけるよう、みんなで研修を深めていきましょう！